

猿 橋  
小学校

# 瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

## 木々の芽にいまだに固きものありて…

校長 澁谷 一男

梅雨明けとともに夏たけなわとなった。まばゆい陽光が容赦なく照り付ける中、芝生広場では、今日も子どもたちの元気な声が響いている。どの子どもも大きくなったものだと、しばし感慨にふける。

「木々の芽にいまだに固きものありて、春は同じに来るにはあらず」これは、新発田市教育委員会 工藤ひとし教育長からお聞きした言葉だ。教育長が教員時代に、先輩から教えられた言葉だという。

春になると、そこかしこの木々が一斉に色とりどりの花を咲かせる。私たちは、咲き誇る花々に目を奪われがちだが、その華やかさの陰で、まだ固い蕾を付けたままの木もある。春はどの木にも同じようにやってくるわけではない。だが、固い蕾もやがては大きく膨らみ、美しい花を咲かせる。その時をじっと待っているのだ。

夏を迎えた今、それぞれの木々は、青々とした葉をいっぱい茂らせている。温かい陽の光が、恵みの雨が、木々を大きく成長させたのだ。

このことは、子どもの成長にも例えることができる。早咲き、遅咲きの花があるように、子どもたちも一人一人、皆違う。得意なことや苦手なこと、受け止め方や感じ方、成長のスピードも…。新年度がスタートした時、張り切っていた多くの子どもの中に、じっと咲くのを待っている蕾のような子もいたであろう。そのような子どもたちを見逃さず、家庭で地域で学校で、声を掛け、手を掛け、温かな愛情をたっぷり注いでやる。それこそが個に応じた教育だ。

新型コロナウイルス感染症により、私たちは、これまでの当たり前が当たり前でなくなることを嫌と言うほど味わった。今年度、学校の教育活動は、様々な制限はあるものの、歩みを止めることなく進めることができている。保護者・地域の皆様の御理解と御協力の賜である。

正常な教育活動が戻りつつある今、改めて感じることは、かけがえのない体験が子どもを大きく成長させるということだ。運動会などの学校行事をはじめ、校外学習、栽培活動、縦割り班活動など、今学期、子どもたちは多くの体験をしてきた。その都度、人と関わり、つながり、多くのことを学んだ。固い蕾は、温かな愛情により花を咲かせ、かけがえのない体験により元気な葉を茂らせて、大きく成長したのだ。

夏休みが始まる。家庭で地域で、多くのかけがえのない体験が子どもたちを待っていることだろう。

